

日本天文学会 2023年 秋季年会プログラム

期 日 2023年9月20日(水)～9月22日(金)
場 所 名古屋大学東山キャンパス
電 話 090-4387-6893(学会事務局) <使用期間 2023年9月19日(火)～9月22日(金)>
E-Mail nenkai-committee@asj.or.jp(年会実行委員会)

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月19日 (火)						記者会見				理事会		
9月20日 (水)	A	受付 9:30 10:00		P3. 惑星系	昼 休 み 12:10～13:30		P3. 惑星系/P1. 星形成		ポスター 16:00 17:00	天文教育 フォーラム 17:00 18:30		
	B			U. 宇宙論			U. 宇宙論					
	C			Z1. マルチメッセンジャー			Z1. マルチメッセンジャー					
	D			Q. 星間現象			Q. 星間現象					
	E			Y. 教育・広報・他			Z4. 汎恒星惑星					
	F			X. 銀河形成・進化			X. 銀河形成・進化					
	G			R. 銀河			R. 銀河					
	H			V2. 観測機器(光赤・重)			V2. 観測機器(光赤・重)					
	I			T. 銀河団			V3. 観測機器(X線・γ線)					
	J			M. 太陽			M. 太陽					
9月21日 (木)	A	受付 9:30 10:00		P1. 星形成	昼 休 み 12:10～13:30 (代議員総会)		P1. 星形成		ポスター 16:00 17:00	会員全体 集会 17:00 18:00	受賞記念 講演 18:00 19:00	
	B			W. コンパクト天体			W. コンパクト天体					
	C			Z1. マルチメッセンジャー			V1. 観測機器(電波)					
	D			Q. 星間現象			Q. 星間現象					
	E			Z4. 汎恒星惑星			Z4. 汎恒星惑星					
	F			X. 銀河形成・進化			X. 銀河形成・進化					
	G			S. 活動銀河核			S. 活動銀河核					
	H			V2. 観測機器(光赤・重)			V2. 観測機器(光赤・重)					
	I			V3. 観測機器(X線・γ線)			V3. 観測機器(X線・γ線)					
	J			N. 恒星・恒星進化			N. 恒星・恒星進化					
9月22日 (金)	A	受付 9:30 10:00		P2. 原始惑星系円盤	昼 休 み 12:10～13:30		P2. 原始惑星系円盤					
	B			W. コンパクト天体			W. コンパクト天体					
	C			V1. 観測機器(電波)			V1. 観測機器(電波)					
	D			Z3. 編隊飛行			Z3. 編隊飛行					
	E			Z2. 低周波天文学			Z2. 低周波天文学					
	F			X. 銀河形成・進化								
	G			S. 活動銀河核			S. 活動銀河核					
	H			V2. 観測機器(光赤・重)								
	I			V3. 観測機器(X線・γ線)								
	J			N. 恒星・恒星進化			N. 恒星・恒星進化					
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

【セッション時間】(午前) 10:00～12:10 (午後) 13:30～15:40

A 会場 : ES 総合館 2F (ES021 講義室)	I 会場 : 野依記念学術交流館 1F (情報ラウンジ)
B 会場 : ES 総合館 2F (ES022 講義室)	J 会場 : 多元数理科学棟 1F (109 講義室)
C 会場 : ES 総合館 2F (ES024 講義室)	K 会場 : 豊田講堂ホール
D 会場 : ES 総合館 2F (ES025 講義室)	※定員が超過した場合は、近くの予備室をご利用ください
E 会場 : ES 総合館 3F (ES034 講義室)	受 付 : 豊田講堂 1F ロビー 1
F 会場 : 理学南館 1F (坂田・平田ホール)	展示コーナー : 豊田講堂 1F ロビー 2
G 会場 : 理学南館 1F (ネオレックスプレイスセミナー室)	ポ ス タ ー : 豊田講堂 1F シンポジオン周辺 / オンライン公開
H 会場 : 野依記念学術交流館 2F (カンファレンスホール)	

◎講演数

講演数：合計 661

(口頭講演 (a)：515、ポスター講演 (b)：126、ポスター講演 (c)：20)

◎参加申込について（参加希望者は、必ず事前に参加申込をしてください）

2016 年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

○参加費用

	会 員	非 会 員
参 加 費	正会員学生:2,000 円 (不課税) 正会員一般:5,000 円 (不課税) 準 会 員:5,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
講演登録費	2,000 円 (不課税) (1 講演につき) 但し事前支払がない場合は、会員 3,000 円 / 非会員 6,000 円	5,000 円 (消費税込み・企画セッション)
年会予稿集	2,000 円 (消費税込み) ※購入希望者のみ	

○参加申込受付場所：学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>)

○参加申込受付期間：2023 年 8 月 1 日正午 ～ 8 月 31 日正午

※直前参加申込受付期間：9/11 正午 ～ 9/22 正午 (会員限定、オンライン参加のみ)

※講演者の方も講演登録費支払期間に参加申込・参加費支払が必要です

※原則として講演登録費・参加費の返金はいたしません

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 10 会場で並行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。
ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、
講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター (添字 b、c) はポスター会場での掲示およびオンライン上で公開いたします。オンライン公開用にポスターファイルの提出をお願いいたします。各ポスター講演に Slack チャンネルをご用意しますので、質疑応答にご活用ください。(添字 a の講演者にも Slack チャンネルをご用意いたします)
3. 口頭講演者 (添字 a、b、r) は、原則として現地会場で発表していただきます。
セッション 開始 5 分前から座長が講演方法の説明をいたします。講演者をご参加ください。
また、口頭講演は原則としてご自身の PC を用いて Zoom に接続し、講演いただきます。万一のトラブルに備えて、PDF 形式の講演ファイルもご用意ください。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、発表方法が変更になる場合がございます。
最新の情報はホームページで必ずご確認ください。

4. オンライン聴講者は、セッション開始時刻の 5 分前からアクセスいただけます。
また入室の際には、下記の命名規則に従って「参加者名」を設定してください。

参加種別	「参加者名」の命名規則	例
視聴者	「氏名」 + 「(所属)」	天文花子 (天文大学)

5. 講演の実施方法の詳細は、学会ホームページに掲載いたします。事前に講演方法についてよく確認いただいた上で準備を進めていただくようお願いいたします。オンラインで参加される方は、Zoom の操作手順に関する理解を深めていただくようお願いいたします。
6. 受信画像や発表資料の保存 (キャプチャを含む)、録音や配布は固くお断りします。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
9月18日(月・祝)	13:00 ～ 16:00	名古屋市科学館 / オンライン	公開講演会
9月19日(火)	13:00 ～ 14:30	オンライン	記者会見
9月20日(水)	17:00 ～ 18:30	K 会場 / オンライン	天文教育フォーラム
9月21日(木)	17:00 ～ 18:00	K 会場 / オンライン	会員全体集会
9月21日(木)	18:00 ～ 19:00	K 会場 / オンライン	受賞記念講演 (欧文研究報告論文賞)

◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否※
9月19日(火)	16:30 ～ 17:30	オンライン	理事会	D
9月20日(水) 9月22日(金)	12:20 ～ 13:20	E 会場	Star Formation Boardgame Project: 天文学普及ボードゲームのテストプレイ	A
9月20日(水)	12:20 ～ 13:20	C 会場	女性天文研究者の会	A
9月20日(水)	12:20 ～ 13:20	J 会場	太陽研究者連絡会 報告会	C
9月21日(木)	12:20 ～ 13:20	現地会場:関係者に別途連絡 / オンライン	代議員総会	D
9月22日(金)	12:20 ～ 13:20	B 会場	理論天文学宇宙物理学懇談会 報告会	C
9月22日(金)	12:20 ～ 13:20	D 会場	高エネルギー宇宙物理連絡会 報告会	C

※年会参加者の参加可否の説明 (オープン化の程度)

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
 B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
 C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
 D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

◎天文教育フォーラム：「プラネタリウムと天文学の共進化 - プラネタリウムの 100 年と今後 -」

日 時：2023 年 9 月 20 日（水）17：00～18：30

場 所：K 会場（豊田講堂ホール）/ オンライン（要申込。天文教育フォーラムのみ参加の場合、参加費は無料です）

概 要： 2023 年は、近代的な光学式プラネタリウムが登場して 100 年目にあたります。この間、日本ではプラネタリウムは広く社会に浸透し、天文学や星空と人々を繋ぐ大事な場のひとつとなりました。日本の各地に根付くプラネタリウムは、それぞれの地域における星空の文化をつむぐ担い手であり、天文学コミュニティにとっても社会との幅広い対話を進めていく上で欠かすことのできないパートナーです。そのようなプラネタリウムと日頃から関わりを持っている人は必ずしも多くないでしょう。今回の天文教育フォーラムでは、日本のプラネタリウムの最新の状況や具体的な連携事例を知った上で、どのような未来を共に目指すことができるのか、皆で議論したいと思います。

話題提供：(1) 毛利勝廣氏（名古屋市科学館）

(2) 高梨直紘氏（天プラ / 東京大学 EMP）

パネルディスカッション：話題提供者に加え、宮野彩氏（富山市科学館）他が登場

実行委員：高梨直紘、玉澤春史、千榊翔、松本佳也、矢治健太郎、大朝由美子、鴈野重之

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

正会員展示

◎「アルマーの冒険」で電波天文学の原理と歴史を自作しよう！

日 時：年会開催期間内

場 所：豊田講堂 1F ロビー 2

概 要： 電波天文広報まんが「アルマーの冒険」は、電波天文学の世界を紹介するアウトリーチコンテンツです。国立天文台の広報機関誌『国立天文台ニュース』誌上で 2011 年から掲載を開始し、2023 年現在も継続中の連載記事です（これまでに 11 話分を掲載）。親しみやすいストーリーまんがを下敷きに、自作アンテナによるさまざまな天体の電波を実地に観測して（これまでのターゲットは太陽、流星、木星など）、電波天文学の原理を学びその歴史を迫体験する構成で、国立天文台のみならず、全国の研究教育機関による最新の研究成果も逐次紹介しています。当展示では、これまでの記事制作の経緯を振り返りながら、電波天文分野のアウトリーチ手法の試行錯誤とその成果を総括し、今後も継続予定の企画内容の検討とより体系的な電波天文学（+光天文学との多波長観測実験の切り口も含めて）の広報普及活動の可能性について考えます。ぜひブースにお立ち寄りください。

世 話 人：高田裕行（国立天文台）

山岡均（国立天文台）

唐崎健嗣（合同会社プラネタリウムワークス）

◎日本天文学会公開講演会

日 時：2023 年 9 月 18 日（月・祝）13：00～16：00（開場 12:30）

形 式：対面とオンラインを併用したハイブリッド形式

場 所：【対面】名古屋市科学館 生命館地下 2 階 サイエンスホール

住所：名古屋市中区栄二丁目 17 番 1 号

【オンライン】名古屋市科学館公式 YouTube チャンネルからのライブ配信

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「名古屋が支える宇宙望遠鏡プロジェクト」

名古屋を含む中部地域はモノづくりが盛んな地域であり、中でも航空宇宙産業に関連する多くの企業が集中する航空宇宙産業の中心地となっています。

本講演会では特に宇宙を観測する衛星に注目し、名古屋大学が関わる 3 つの天文衛星、X 線天文衛星 XRISM、次期太陽観測衛星 SOLAR-C、宇宙重力波望遠鏡 DECIGO をとりあげ、宇宙開発が切り開く最前線の研究を紹介します。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参 加 費：無料（当日は常設展示室を自由に観覧できます）

定 員：【対面】200 名（事前申込制）

【オンライン】申込不要です。ライブ配信を自由に視聴していただけます。

<講演内容の紹介>

講演 1：「XRISM 衛星で宇宙に吹き渡る風を見よう！」

講師：中澤 知洋（名古屋大学 素粒子宇宙起源研究所 / 大学院理学研究科 准教授）

今年日本から打ち上げ予定の宇宙 X 線観測衛星 XRISM(クリズム)は、これまでより 30 倍も精密な分光ができます。ドップラー効果を用いて、「ブラックホール」から吹き出す光速の 3 割すなわち秒速 10 万 km の風、宇宙最大の天体「銀河団」の中を吹き荒れる秒速 500 km 以上の乱流など、激しく灼熱な宇宙の現象の中で「吹き荒れる嵐」の強さを初めて詳しく測定し、ダイナミックな宇宙を探ります。

講演 2：「最も身近な恒星「太陽」の不思議と SOLAR-C ミッション」

講師：今田 晋亮（東京大学 大学院理学系研究科 教授）

最も身近な恒星である太陽にも、まだまだ未解明の謎がたくさんあります。SOLAR-C は高空間分解能（太陽表面で 300km）、高時間分解能（1 秒程度）、広い温度範囲（1 万度から数千万度）で観測する極端紫外・紫外域の分光撮像観測装置で、日本が中心となって推進する 2020 年代に最優先で実現を目指した日本主導の国際協力ミッションです。SOLAR-C を用いて、どのようにして太陽の謎を解明しようとしているかご紹介します。

講演 3：「重力波で宇宙の産声を聞こう！」

講師：川村 静児（名古屋大学 大学院理学研究科 教授）

重力波の音が初めて聞こえて以来、ブラックホールや中性子星の連星合体からやってくる、いろいろな重力波のメロディーが聞こえてきました。将来的には、宇宙重力波望遠鏡 DECIGO により、宇宙の産声を聞き、宇宙誕生の謎に迫ることも期待されています。本講演ではこれまでに聞こえた重力波のメロディーをお聞かせし、また、DECIGO のためのモノづくりについても解説します。

主 催：公益社団法人 日本天文学会、名古屋市科学館

共 催：名古屋大学

※参加申込方法、及び最新のプログラムにつきましては学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>) をご覧ください。

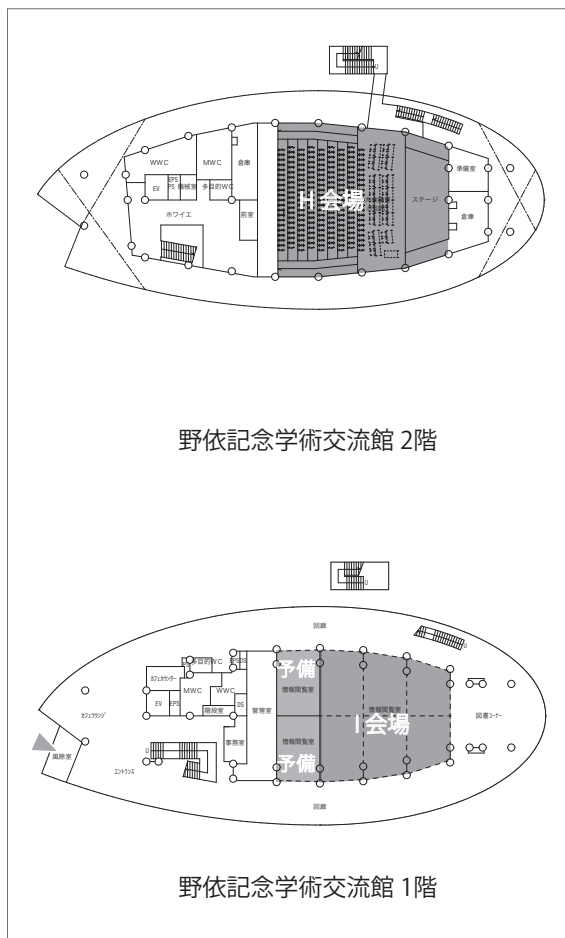
交通のご案内

主な交通手段と所要時間

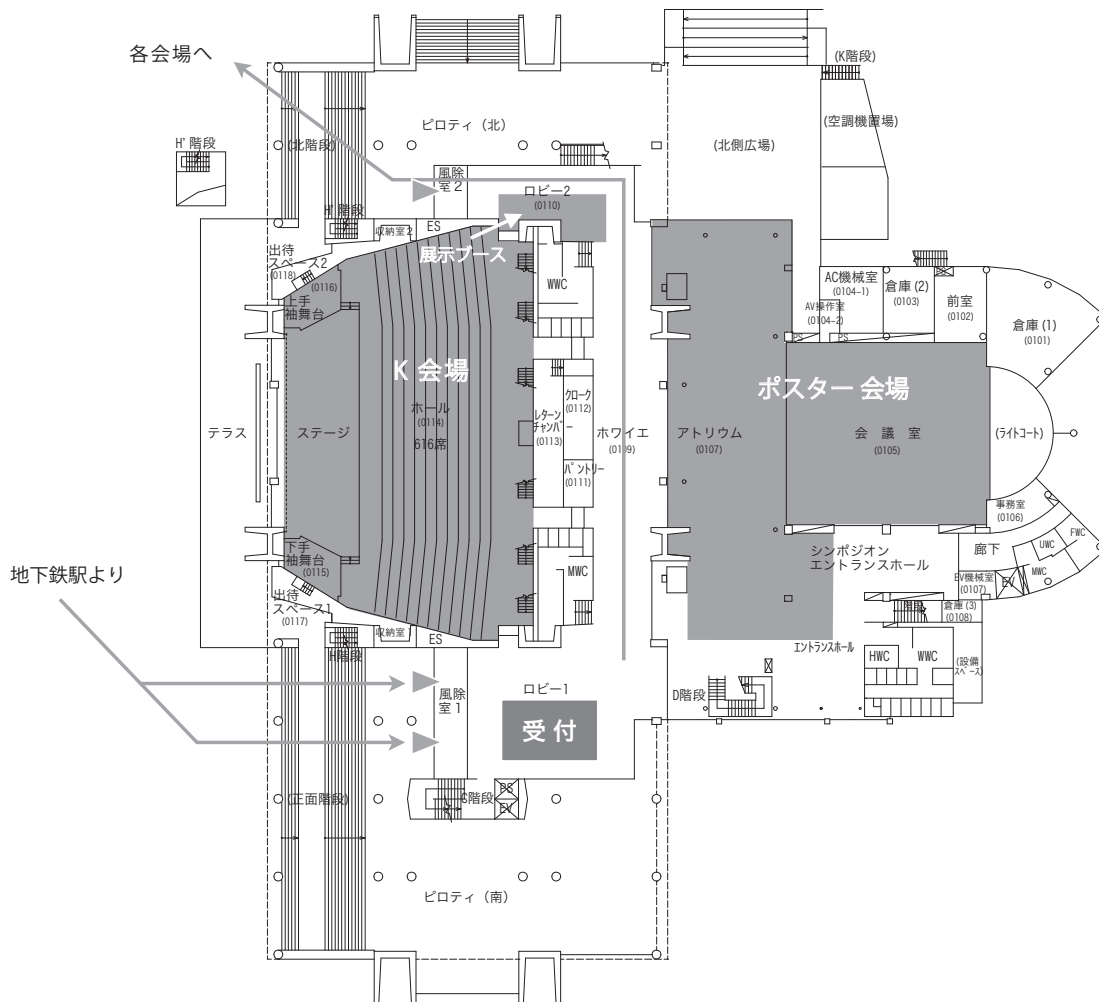
名古屋駅 → 名古屋大学	地下鉄 東山線 (藤が丘行き, 15分) 「本山駅」 乗り換え 地下鉄 名城線 (右回り, 2分) 「名古屋大学駅」 下車, 2番出口すぐ
中部国際空港 → 名古屋大学	名鉄線 (約30分) 「金山駅」 乗り換え 名古屋地下鉄 名城線 (左回り, 21分) 「名古屋大学駅」 下車, 2番出口すぐ

名古屋大学（東山）キャンパスマップ





セッション会場のご案内



豊田講堂 1階

- ◎ 必ず1階ロビーにてQRコードによる受付後、参加証を受け取ってください。
- ◎ セッション会場が混雑している場合は、予備室をご利用ください。
- ◎ 構内での飲食は決められた場所をお願いいたします。